

「水の世紀」を迎えて： ダルフール紛争に見る水資源問題

Abstract

“If the wars of this century were fought over oil, the wars of the next century will be fought over water.” これは前世界銀行副総裁であるイスマイル・セラゲルディン氏が 1995 年に述べた言葉である。それから 13 年が経過した現在の世界情勢を俯瞰してみると、残念ながらこのセラゲルディン氏の言葉は非常に先見性に富んだ言葉であったと言わざるを得ない。

国連により「世界最悪の人道危機」と呼ばれているダルフール紛争は、スーダン西部のダルフール地方において現在も続いている紛争である。一般的には、スーダン政府に支援されたアラブ系組織「ジャンジャウィード」という民兵と、同地域の非アラブ系住民との間で起こっている民族紛争と認知されているが、その根本的な原因には水資源をめぐる争いがあると言われている。1980 年代半ばに起こった猛烈な旱魃と飢饉によりダルフール地方は水不足に陥り、それまで平和的に暮らしていたアラブ系遊牧民と非アラブ系農民の間に水をめぐった緊張関係が生まれたのである。各地における武力衝突により、環境はさらに悪化し、数百万人に登る住民が難民となり、水不足に苦しんでいる。その一方で、ナイル川流域にあるスーダンの東部は、昨年 8 月に近年稀に見る大洪水の被害にあっている。同じ国の中で、西部では水不足による紛争が起きており、東部では水過多による被害が起こっているというのはまことに皮肉である。

問題への対応策

遠く離れたアフリカの地で起きている民族紛争に対して、日本にいる私たちになにができるのだろうか。問題があまりにも複雑で巨大すぎて、一市民の私ではどうすることもできず、各政治家や役人が最善の判断をして解決策を導くのをただ待つしかないと思えるかもしれない。しかし、そんな私たちもできることはあるのだ。

基本的なことだが、こうした問題に常にアンテナを張り続け、身の回りの人々と情報を共有していくことが重要だ。実際、この紛争は「忘れられた緊急事態」とも呼ばれ、過去 2 年ではダルフール紛争に対するメディアの関心が徐々に薄れ、現地で活動を続ける国際機関や人道支援機関に対する支援が劇的に減少しつつあるという。被害者の増加に伴ってコミュニティの人道支援に対する依存度が高まっている現在、十分な支援が届かなければ現地の人々に直接的な影響が及ぶことになるのだ。ダルフール問題を広く日本社会に知らせるために立ち上げられたウェブサイトもあるので、それを友人に伝えたり、ユニセフで呼びかけている募金に応じたりすることで、私たちも今、ここで、ダルフール問題の解決に携わることができるのである。同じ地球市民として、これからもさらにこの問題の認知度を高め、支援をしていく姿勢が大切であろう。そうすれば、この悲惨な問題にも早期解決の光が見えてくるはずである。

参考資料

ダルフール・ニュース <<http://darfur-news.seesaa.net/article/72295271.html>>

「ダルフール紛争」ウィキペディア <<http://ja.wikipedia.org/wiki/>>

ISMAIL SERAGELDIN <<http://www.serageldin.com/Water.htm>>

Japanese for Darfur 日本の声をダルフールへ <<http://japanesefordarfur.org/>>

NIKKEI NET 2007 年 7 月 27 日 <<http://eco.nikkei.co.jp/news/article.aspx?id=2007073001881n2>>

‘The Darfur Crisis Q&A’ Guardian Unlimited homepage

<<http://www.guardian.co.uk/sudan/story/0,,2197598,00.html>>

UNHCR homepage <<http://www.unhcr.or.jp/news/2007/070816.html>>

UNICEF homepage <<http://www.unicef.or.jp/kinkyu/sudan/2007.htm>>